

色とカラーイメージ語との関係

中 村 妙 子

Relationship between Colors and Color Emotion Words

Taeko NAKAMURA

Colors induce us various emotions and impressions. The emotion is described by the color emotion words such as *light* and *warm*. It is very important to know the relationship between colors and emotion words.

I systematically selected 212 color specimens from SCOTOD2450(Kensaikan) and selected 151 color emotion words. I carried out an experiment using color specimens.

43 female students were asked to choose only one emotion word which describes best the color in question. 34 female students were asked to choose one color specimen which describes best the emotion word in question.

I tried to find out the relationship between colors and emotion words. However, 19-37(Av. 27) emotion words were selected against one color specimen and 7-31(Av. 21) color chips selected against an emotion word.

The highest frequency word was '*jimina*'. The frequency was 263. 9 words were chosen more than 100 times. Only two words, '*awai*' and '*azayaka-na*' are included in JIS Z 8102.

It was difficult to connect colors with emotion words. In future, it will be important to collect a further variety of data to understand the magnitude of these differences. I continue this investigation based on experiments on the different condition.

Key words: color appearance, color emotion word, hue, tone, color design

1. 緒言

私たちは、目に入る色彩により大きな心理的影響を受ける。真っ赤に染まった夕焼けを見ると自然の織りなす美しさに感動し、けばけばしく塗られた壁面を見ると腹立たしさを覚える。自然から与えられた色彩には、美しさや和みを感じることは多いが、人が作り出した色彩には、快いものもあれば、不快に感じるもの

もある。豊かな気持で生活するためには、色彩は非常に重要な要素となるが、その重要要素である色をどのように表現し、伝え、また、要求して行けばよいのであろうか。

色の数値化は、マンセル表色系のHV/C^{1) 2)}やCIELAB表色系のL*a*b*c^{* 3) 4)}などに代表されるようにすでにいくつか提案されており、企業などでは、色の

管理や伝達に日常的に使われている。色を数値で表すことにより、個人誤差がなく数値から色を特定することが出来るが、色を数値化するためには、測色計を用いなければならない。また、得られた数値からどの色であると特定するには、知識と経験が必要となる。

もう1つの色を表す方法として色名がある。色名には、鶯色、抹茶色など、日常生活から生まれた慣用色名⁵⁾と、鴉色を表すときの明るい紫みの赤など、“明度および彩度に関する修飾語”+“色相に関する修飾語”+“有彩色の基本色名”を組み合わせた系統色名⁶⁾がある。本学学生に、「知っている色を書きなさい」と指示を出すと、赤、青、黄、・・・などとおおよそ20色ぐらいの色を挙げるが、系統色名は、全く使われず、慣用色名を書く。JISに採録されている慣用色名は269色であるが⁵⁾、多く知っている学生でも30色程度である。

一般消費者が、色を表現する場合、慣用色名の他に“さわやかな色”、“地味な色”などとイメージを表す言葉で表現する場合が多い。しかし、イメージは、文化や学習の影響を受けやすく、イメージから色を特定することは難しい。これまでに、カラーイメージについては、色から受ける感情効果、色の連想と象徴、カラーイメージスケールなど多くの研究がなされてきて

おり、色とイメージを結ぶ試みはなされてきているが^{6) 7)}、それらの結果に対して、個人誤差がどの程度あるのかは明らかにされていない。

そこで、色のイメージを表現する言葉をカラーイメージ語とし、系統的に作製した色票を用いてカラーイメージ語と色との対応を検討し、個人誤差の程度を調べた。

2. 色票とカラーイメージ語

視感判定用を使用する色票は、色空間からランダムに選ぶのではなく、一定の規則に従い選出し、色空間を隔たりなく網羅したものが望まれる。そこで、色相として、マンセル色相、5R, 10R, 5YR, 10YR... 5RP, 10RPの20色相を用い、等色相面においては、明度・彩度を組み合わせたトーン区分を採用し、そのトーン区分の中心となる色を選択することを考えた。トーン区分には、日本色研のカラー・トーンマニュアルによるトーン区分⁸⁾や小林によるカラーイメージスケールによるトーンシステム⁹⁾があるが、いずれも測色値と十分に対応していない。そこで、測色値とトーン区分が明らかになっており、ISCC -NBS色名区分とも良好に一致が見られるカラースコア図のトーン区分を用いた。^{10) 11)} (図1) そのカラースコア図のトーン

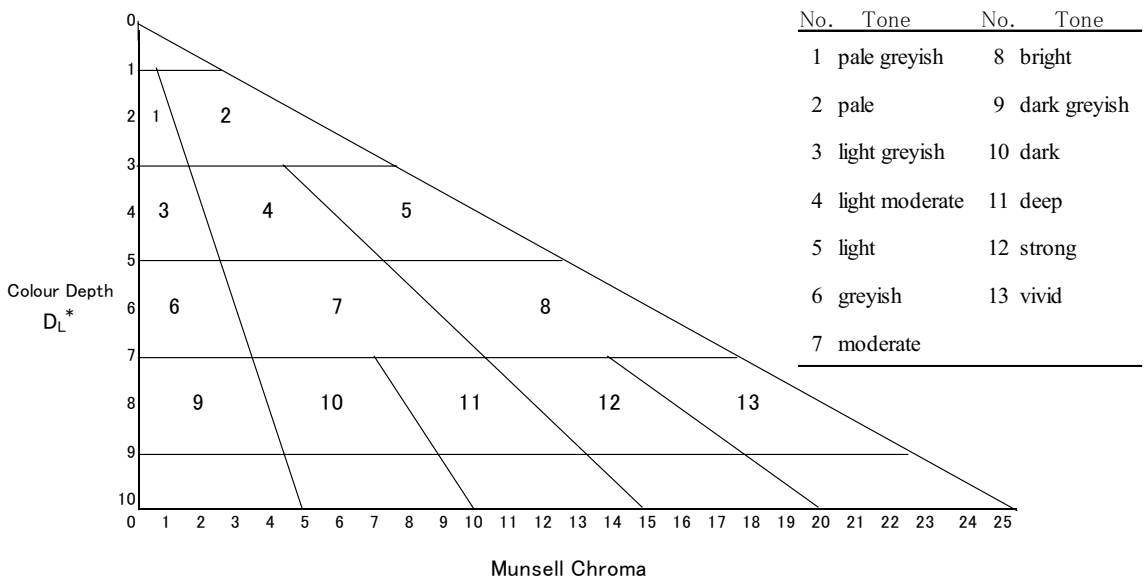


図1 カラースコア図 (トーン区分図)

区分領域の中央値の色度点は明らかになっているので、その色度点に最も近い色票をSCOTOD2450(1.5×1.3cm) (研彩館) から選ぶことを試みた。すべての色相においてvividトーン色域にはいる色票は、存在しなかった。また、色相によりSCOTOD2450の色域範囲が異なるので、彩度の高い色票が存在しない色相もあった。色票の存在したトーン数および存在しないトーン番号を色相別にまとめた。(表1)

選んだ212色票を1枚ずつ台紙に貼った。その際、色票1枚だけでは、イメージが伝わりにくいのではないかと考え、同じ等色相面内の同じトーンに属する他の色票を両隣に配置し、1枚の台紙に計3枚の色票を並べ、計212枚の視感判定試料Aを作製した。(図2)

次に、等色相面に色票を配置するように試みた。図1のトーン図を変形させ、図3のような長方形のトーン区分図を考え、そのトーン区分の中に選択した色票を貼り付け、20枚の等色相面を作製し、視感判定試料Bとした。(図3)

色から受ける印象を表す言葉をカラーイメージ語とすると、カラーイメージ語としてどのような言葉が適切なのかは明確にはなっていない。しかし、PCCS表色系やISCC-NBSにおける等色相面での色域区分に形容詞や形容動詞が使われており⁵⁾、また、カラーイ

メージ事典には136語のイメージ語¹²⁾が記載されている。これらの言葉と国語辞書を参考にして、151のカラーイメージ語を選んだ。

選んだ言葉の中には、重い、重厚な、重々しい、また、愛らしい、かわいい、可憐な、プリティなど、ほぼ同じ意味の言葉も選び出したが、1つの言葉に代表させることはしなかった。これは、同じような意味であっても微妙にニュアンスが異なり、どの言葉に代表させるのが適切なのかを決めるのは難しく、また、今後、カラーイメージ語の数を絞り込む際、貴重な資料となるのではないかと考えたからである。

選んだ言葉は、言葉を選ぶ時に選びやすいように、よく似た意味を持った言葉を集めて順番をつけ、表にまとめた。(表2)

3. 視感実験

①視感実験A (色から言葉)

北窓昼光下のもと、43名の正常な色覚を持った女子学生に、視感判定試料Aを用い、色票から受けるイメージに最も適したと思われる言葉を、表2の151語の中から1つだけ選ぶよう指示した。

②視感実験B (言葉から色)

北窓昼光下のもと、視感判定試料B、20枚を色相順に机に配置し、34名の正常な色覚を持った女子学生に、151のカラーイメージ語に対し最も適当と思われる色票を1つ選ぶよう指示した。

4. 視感実験結果と考察

色を見て言葉を選んでもらう視感実験Aでは、それぞれの色票に対し、1つのカラーイメージ語が集中して選ばれるのではなく、様々な言葉が選ばれていた。5R8の色票と5B2の色票で選ばれたカラーイメージ語を表3、4に示す。

5R8では、30の言葉が選ばれ、43人の約半分の21人が、1人だけが選んだ言葉で、2人が同じ言葉を選んだのは5つの言葉、3人が選んだのは4つの言葉であった。

5B2は、5R8ほどのばらつきはなく、19のカラーイメージ語が選ばれた。10人が1人だけの言葉を、2人が同じであったのが4つの言葉、さらに3人が同じ言

表1 色相とトーン数との関係

色相	トーン数	存在しないトーンNo.
5R	12	13
10R	12	13
5YR	12	13
10YR	10	11 12 13
5Y	10	11 12 13
10Y	10	11 12 13
5GY	12	13
10GY	9	4 8 12 13
5G	9	4 8 12 13
10G	9	4 8 12 13
5BG	9	4 8 12 13
10BG	8	4 8 11 12 13
5B	8	4 8 11 12 13
10B	10	11 12 13
5PB	12	13
10PB	12	13
5P	12	13
10P	12	13
5RP	12	13
10RP	12	13

表2 カラーイメージ語

1	軽い	51	郷愁のある	101	きらびやか
2	淡い	52	素朴な	102	けばけばしい
3	淡白な	53	寒い	103	まぶしい
4	清潔な	54	冷たい	104	激しい
5	清楚な	55	涼しい	105	暖かい
6	弱い	56	肌寒い	106	暑い
7	かすんだ	57	鈍い	107	情熱的な
8	はかない	58	土臭い	108	刺激的な
9	風情のある	59	暗い	109	陽気な
10	澄んだ	60	男性的な	110	愉快的な
11	清らかな	61	男らしい	111	晴れやかな
12	清澄な	62	力強い	112	快活な
13	清涼な	63	強い	113	おめでたい
14	クリアーな	64	たくましい	114	開放的な
15	すっきりした	65	りりしい	115	なごやかな
16	さっぱりした	66	野性的な	116	明るい
17	さわやかな	67	大人っぽい	117	楽しい
18	すがすがしい	68	公式的な	118	ほがらかな
19	みずみずしい	69	厳肅な	119	元気な
20	新鮮な	70	厳かな	120	生き生きした
21	自然な	71	荘厳な	121	若々しい
22	フレッシュな	72	伝統的な	122	軽快な
23	青春の	73	硬い	123	ういういしい
24	ナチュラルな	74	重い	124	穏やかな
25	しっとりした	75	重厚な	125	うららかな
26	静的な	76	重々しい	126	のどかな
27	静かな	77	安定した	127	幸福な
28	沈静な	78	にこった	128	甘美な
29	冷静な	79	充実した	129	甘い
30	寂しい	80	実用的な	130	ほのぼのした
31	静寂な	81	格調ある	131	うれしい
32	理知的な	82	女性的な	132	カジュアルな
33	わびしい	83	女らしい	133	スポーティな
34	平和な	84	艶っぽい	134	健康的な
35	安全な	85	色っぽい	135	家庭的な
36	崇高な	86	こくのある	136	心地よい
37	上品な	87	味わい深い	137	豊かな
38	真面目な	88	優雅な	138	くつろいだ
39	高貴な	89	雅やかな	139	ふくよかな
40	粹な	90	動的な	140	ロマンティックな
41	地味な	91	魅惑的な	141	メルヘンの
42	陰気な	92	豪華な	142	子供らしい
43	わびしい	93	円熟した	143	愛らしい
44	渋い	94	洋風な	144	かわいしい
45	奥ゆかしい	95	ゴージャスな	145	可憐な
46	しとやかな	96	贅沢な	146	プリティな
47	シックな	97	エレガントな	147	柔らかい
48	やすらかな	98	派手な	148	柔和な
49	古風な	99	あざやかな	149	やさしい
50	和風の	100	華やかな	150	しなやかな
				151	おとなしい

葉であったのが2つの言葉である。また、全体の26%にあたる11人が“みずみずしい”と答えており、他の色票に比べ、1つの言葉に集約されやすい色であった。選ばれた言葉の中には、意味合いはよく似ている

言葉もあるが、それでも1つ1つの言葉には意味の違いがあり、この言葉で代表できるという判断は難しい。

すべての色票についてみると、1つの色票に対し、

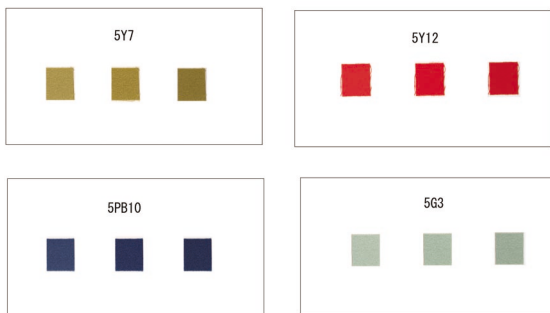


図2 視感判定試料（試料A）

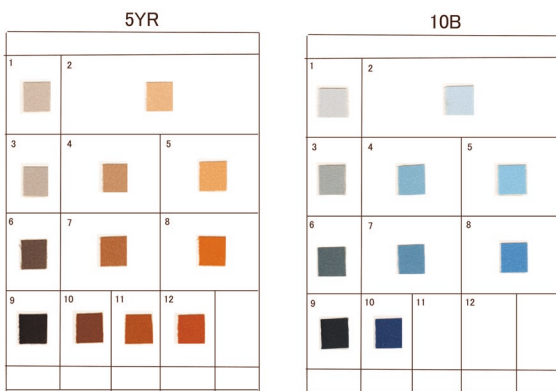


図3 視感判定試料（試料B）

最も少ないことばで5B2, 5RP9の19個が最も少なく, 最も多かったのは, 5BG11で37個であった. この37個は, 表2のカラーイメージ語の25%にあたり, その37語のうち33語は, 1人だけのイメージ語であり, カラーイメージは, 1人ひとり異なると言っても過言でない結果となった. 次いで10BG4の色票であり33語のカラーイメージ語が選ばれ, そのうち28語が1人だけであった. 逆に, 最も多くの人が同じカラーイメージ語を選んだのは, 10R10に与えられた“土臭い”の13人, ついで5B2に与えられた“みずみずしい”の11人であった. “土臭い”, “みずみずしい”に代表されるように, 選ばれたカラーイメージ語は, “暖かい”, “暗い”など色相やトーンの影響の大きいカラーイメージ語より, 感情を表す言葉を選ぶ傾向が見られた.

それぞれの色票に対して選ばれた言葉の数の分布を表5に示す. 約半分にあたる色票に対して25から29までの言葉数が選ばれており, 残りの約1/4が, 20～

表3 5R8の色票に対し選ばれた言葉（選んだ人数ごと）

色票	1人	2人	3人
5R8 (bright)	自然な	暖かい	鮮やかな
	フレッシュな	快活な	明るい
	青春の	おめでたい	愛らしい
	円熟した	なごやかな	若々しい
	ゴージャスな	カジュアルな	
	派手な		
	華やかな		
	げばげばしい		
	まぶしい		
	情熱的な		
	刺激的な		
	陽気な		
	元気な		
	生き生きした		
	軽快な		
	うらかな		
	幸福な		
	健康的な		
	ふくよかな		
	ロマンチックな		
	メルヘンの		

表4 5B2の色票に対し選ばれた言葉（選んだ人数ごと）

色票	1人	2人	3人	4人	11人
5B2 (pale)	淡い	さわやかな	清涼な	クリアな	みずみずしい
	清潔な	すがすがしい	自然な	涼しい	
	清楚な	新鮮な			
	澄んだ	静的な			
	さっぱりした				
	ナチュラルな				
	メルヘンの				
	子どもらしい				
	優しい				
	しなやかな				

表5 色票に与えられた言葉の数

言葉の数	色票の数
$0 \leq \text{No} < 5$	0
$5 \leq \text{No} < 10$	0
$10 \leq \text{No} < 15$	0
$15 \leq \text{No} < 20$	2
$20 \leq \text{No} < 25$	51
$25 \leq \text{No} < 30$	104
$30 \leq \text{No} < 35$	52
$35 \leq \text{No} < 40$	3

24, 30～34の言葉数が選ばれ, 平均で27個の言葉が選ばれた.

このばらつきは, 色相の影響が大きいのか, トーンの影響が大きいのか分析を行った. 色相ごとに, 選んだ人数に対する言葉数の割合を示したのが表6である. 5Rの色相に対し, 1人だけしか選ばなかった

言葉の割合が、5Rに対して選ばれた言葉の65.5%になり、2人が同じ言葉を選んだ割合が20.9%であることを示している。色相による大きな違いは見られなかったが、1人しか選ばなかった言葉が一番多かったのが10BGであり、最も少なかったのが10YRであっ

た。選ばれた言葉数が多かったのが、10BG、10PBであり、少なかったのが、10RPであった。

トーンごとにまとめたのが、表7である。トーンの方が色相よりは違いが見られた。light moderate, deep トーンに選ばれる言葉は多く、次いで、moderate トー

表6 各色相に選ばれた言葉の分布および平均言葉数

色相	1人	2人	3人	4人	5人	6人以上	平均
5R	65.5%	20.9%	9.0%	1.6%	2.3%	0.3%	27.1
10R	65.2%	18.6%	9.3%	4.3%	1.2%	1.4%	27.7
5YR	69.6%	17.3%	6.8%	2.4%	1.6%	2.3%	26.7
10YR	58.5%	23.1%	10.6%	3.1%	2.7%	2.1%	27.6
5Y	62.3%	20.5%	10.3%	4.1%	1.6%	1.2%	25.4
10Y	64.1%	20.0%	12.4%	1.1%	1.5%	0.9%	26.0
5GY	65.4%	20.2%	6.7%	4.8%	1.6%	1.3%	27.5
10GY	65.0%	22.7%	7.8%	2.8%	1.2%	0.5%	27.1
5G	68.4%	18.7%	5.9%	4.0%	1.8%	1.3%	27.9
10G	66.0%	21.8%	8.0%	2.9%	0.0%	1.4%	27.2
5BG	65.4%	23.5%	7.1%	1.8%	1.3%	0.9%	27.6
10BG	71.7%	11.9%	10.3%	1.8%	2.2%	2.0%	28.6
5B	59.1%	21.1%	11.8%	5.3%	1.5%	1.3%	27.5
10B	61.7%	19.6%	12.1%	3.1%	3.0%	0.4%	25.0
5PB	66.9%	19.6%	8.4%	2.4%	1.6%	1.0%	25.7
10PB	64.7%	21.3%	8.8%	2.9%	1.2%	1.0%	28.6
5P	65.8%	22.0%	5.4%	3.8%	2.4%	0.7%	28.1
10P	64.0%	20.7%	7.1%	4.2%	2.4%	1.6%	27.6
5RP	61.4%	20.5%	6.4%	5.0%	3.6%	3.1%	26.2
10RP	62.5%	21.3%	9.4%	5.2%	0.3%	1.3%	24.9
全色相	64.7%	20.3%	8.6%	3.4%	1.8%	1.2%	27.1

表7 各トーンに選ばれた言葉の分布および平均言葉数

トーン	1	2	3	4	5	6人以上	平均
pale greyish	61.9%	19.7%	10.8%	4.0%	2.4%	1.3%	25.6
pale	61.5%	21.1%	9.6%	3.0%	2.3%	2.5%	25.2
light greyish	61.3%	22.7%	10.2%	4.2%	1.2%	0.5%	26.4
light moderate	71.0%	18.9%	6.6%	2.3%	0.9%	0.4%	30.2
light	68.6%	16.7%	7.4%	3.2%	3.0%	1.2%	27.6
grayish	62.9%	21.3%	8.9%	3.0%	1.4%	2.5%	25.8
moderate	67.0%	20.0%	8.1%	2.5%	1.8%	0.6%	28.3
bright	63.1%	20.4%	9.3%	3.7%	2.7%	0.9%	26.8
dark greyish	57.9%	22.2%	10.0%	4.2%	2.8%	2.9%	23.6
dark	66.8%	21.1%	6.5%	4.1%	0.9%	0.7%	28.4
deep	72.0%	16.1%	6.7%	3.3%	1.3%	0.5%	30.0
strong	65.2%	22.3%	7.4%	2.5%	0.7%	1.9%	27.7
全トーン	64.7%	20.3%	8.6%	3.4%	1.8%	1.2%	27.1

ンであり、選ばれる言葉が最も少なかったトーンが、dark grayish トーンであった。light moderate, deep トーンなど選ばれる言葉が多いトーンは、1 人だけ選んだ言葉が約 7 割強 (71%, 72%) を占め、カラーイメージが特定しにくいトーンである。選ばれる言葉が最も少なかった dark grayish トーンは、約 6 割弱 (57.9%) が一人だけ選んだ言葉であり、最も多く選ばれた言葉が、“重厚な”で、次いで“重い”、“重々しい”で、この 3 つの言葉で、dark grayish トーンの約 3 割を占めた。dark grayish トーンなどは、よく似た言葉をまとめるとカラーイメージを特定しやすいトーンと言える。

次に、どのような言葉が選ばれる頻度が高いかを調べた。最も多く選ばれた言葉は、“地味な”で、重複を含め延べ 263 人が選び、次いで、“落ち着いた”の 224 人であった。100 人以上選んだ言葉を表 8 にまとめる。この内、“淡い”、“あざやかな”は、JIS Z 8102 の系統色名を表す“明度および彩度に関する修飾語”に使われており、トーン区分を表す言葉と言える。頻度の高い言葉は、色相の影響を受けにくくトーン領域も広い言葉のように感じられる。

多く選ばれていた“あざやかな”と“クリアーな”について詳細に見る。“あざやかな”の言葉が選ばれた色票は、bright トーンが多かったが、strong, deep, light, moderate などとも含まれていた。G, BG 以外の色相には、“あざやかな”の言葉を 3 人以上が選んでおり、色相の影響は少なくトーンの影響が見られるが、それでもトーンのばらつきはあった。3 人以上選んだ結果を表 9 に示す。

表 8 100 回以上選出された言葉

カラーイメージ語	選ばれた数
地味な	263
落ち着いた	224
シックな	175
淡い	144
古風な	138
エレガントな	120
クリアーな	108
鮮やかな	105
重々しい	100

“クリアーな”は、5G から 5P までで、色相の影響が大きく、トーンでは、pale, pale grayish, light moderate であったが、bright トーンも含まれ、寒色の範囲でも

表 9 “あざやかな”を選んだ色票 (視感実験 A)

色票		人数
色相	トーン	
5PB	strong	7
5RP	bright	6
5R	strong	5
10YR	bright	5
10Y	bright	5
10P	bright	5
5YR	bright	4
10Y	light	4
5GY	bright	4
5GY	deep	4
5P	bright	4
10RP	bright	4
5R	bright	3
10R	strong	3
5Y	bright	3
10GY	deep	3
5B	moderate	3
5PB	bright	3
10PB	bright	3
10P	strong	3

表 10 “クリアーな”を選んだ色票 (視感実験 A)

色票		人数
色相	トーン	
10G	pale greyish	6
5BG	pale	6
10BG	pale	6
5G	pale greyish	5
5B	light moderate	5
5B	pale	4
10B	bright	4
10GY	light moderate	3
10G	pale	3
5B	moderate	3
10B	pale greyish	3
10PB	pale	3
5P	pale	3

かなりの色域に存在するカラーイメージ語であることがわかる (表10)。

次に、カラーイメージ語からどのような色を想定するのか、視感実験Bについて検討を行う。

1つの言葉に対してその言葉にふさわしい色として7～31までの色票が選ばれた。最も選ばれた色票が多かったのが、“沈静な”で31色票、もっとも少なかったのが“暑い”、“情熱的な”で7色票である。平均21色票が選ばれた。

表4の5B2に対して、11人の被験者が“みずみずしい”と答えたので、“みずみずしい”からどのような色を選ぶのかを調べた。その結果を表11に示す。

5B2がふさわしいと思った人は2人であり、もっと

多かったのは、10B5の6人であった。

10B5から選んだ言葉を見ると“みずみずしい”が6人でもっとも多く、10B5と“みずみずしい”の対応が認められるが、5B2との対応は、それほど良くない。

視感実験Aで最も多くの人数がつけたのは、10R10の“土臭い”の13人であったが、“土臭い”から選んだ色票で最も多かったのが、10YR10の6人であった。10YR10は“伝統的な”が5人で“土臭い”は4人で次であった。

視感実験Aで、“あざやかな”とつけた色票についての結果を表9に示したが、“あざやかな”から選ばれた色票を表12に示す。色票を見て“あざやかな”を

表11 “みずみずしい” から選ばれた色票 (視感実験B)

カラー イメージ語	人 数				
	1人	2人	3人	4人	6人
みずみずしい	10G 4	5B 4	10BG 2	10B 4	10B 5
	10BG 4	5PB 12		10B 8	
	10GY 2	5PB 8			
	10G 1	5B 2			
	5BG 2				
	10Y 5				
	10Y 2				
	5GY 12				
	10BG 7				

表12 “あざやかな” から選ばれた色票 (視感実験B)

カラー イメージ語	人 数				
	1人	2人	3人	5人	7人
あざやかな	10RP 8	10YR 8	10Y 8	5R 12	10P 12
	5RP 8			10RP 12	
	5RP 12				
	5P 5				
	10PB 8				
	5PB 8				
	5PB 12				
	10B 8				
	5BG 4				
	5BG 2				
	5GY 8				
	10R 12				

選んだのは、5PB12の7人が最高であったが、“あざやかな”から選んだのは、10P12の7人が最高で5PB12を選んだのは1人であった。

このように、色を見て選ぶカラーイメージ語とカラーイメージ語から選ぶ色は、大きくずれないまでも一致は見られなかった。

これらの結果を考えると、色から受けるイメージは個人の感性に負うところが大きく、また、色から選ぶカラーイメージ語とカラーイメージ語から選ぶ色とが一致しないことも明らかになり、色とカラーイメージ語とを対応させることは難しいと考えられる。

ただ、今回の結果は、視感実験の方法が、カラーイメージ語として151挙げたこと、選択の方法を最も適した言葉、あるいは、色票を1つだけ選びなさいと指示を出したことに起因していることも考えられる。この結果をもとに、カラーイメージ語を減らし、選択方法を1つに限らず、幅をもたした数であれば、また、違った結果が得られるものと思われる。今後、この結果を基に、新たな視感実験方法を構築し、色とカラーイメージ語との対応を図りたい。

5. 結言

色と色から受けるイメージを表す言葉（カラーイメージ語）との対応を、系統的試料を作製し、151のカラーイメージ語を選びだし、検討を行った。その際、色からカラーイメージ語を選ぶ方法と、カラーイメージ語から色を選ぶ2つの方法で行ったが、いずれの場合も最も適すると思われるもの1つを選びなさいと指示を出した。

その結果、色票からイメージ語を選ぶ場合、1つの色票に対して19～37で平均27の言葉が選ばれた。色相、トーンごとにばらつき度合いを検討したが、色相の違いはあまり見られなかったが、トーンによってややばらつき度合いは異なった。カラーイメージ語としては、“地味な”、“落ち着いた”などが、頻度高く選ばれていた。

また、カラーイメージ語から色を選ぶ場合、1つの色票に対し7～31で平均21の色が選ばれ、色票からカラーイメージ語を選ぶよりばらつき度合いは少なかったが、両者の関係の一致は見られなかった。今回の実

験では、色とカラーイメージ語の詳細な対応を見出すことは出来なかったが、1人ひとりの持つカラーイメージには、かなりの異なりがあることを明らかにしたことは、意義深いものと考ええる。

カラーイメージは、色表現の1つとして日常的に用いられている。今後、この結果を参考とし、カラーイメージ語として何語ほど必要なのか、また、どのような言葉が、的確に色を特定しやすいのか、また、色から受ける言葉と言葉から受ける色との差が少ない言葉はどのような言葉なのかを探り、カラーイメージの確立を目指したい。

要約

色を表わす場合、色名だけでなく色から受けるイメージを形容詞や形容動詞を用いることが多い。その形容詞や形容動詞をカラーイメージ語とし、色とカラーイメージ語との関係を見出す試みを行った。212の系統的な色票を作成し、カラーイメージ語として151語選び、色票とカラーイメージ語の対応を見るための視感実験を2方法で行った。1つは、色票からカラーイメージ語を選ぶ実験（被験者数43名）、もう1つは、カラーイメージ語から色票を選ぶ実験（被験者数34名）である。いずれの実験も、被験者には、最適な関係にあるものを1つ選ぶように指示した。

その結果、色票からイメージ語を選ぶ場合、1つの色票に対して19～37、平均で27の言葉が選ばれ、カラーイメージ語から色を選ぶ場合、1つのカラーイメージ語に対し7～31、平均で21の色が選ばれた。また、最も多く選ばれた言葉は、263回の“地味な”であり、100回以上選ばれた言葉は9つあった。この視感実験からは、色とイメージ語との対応には、個人の感性に因る所が大きい結果となった。色を見て感じるイメージとカラーイメージ語から選ぶ色との一致も見られなかった。

色とカラーイメージ語との関係を明確化すると、デザイン分野などにおいて大いに利用できるので、今後、この結果を踏まえ、さらに検討を重ねていく。

引用文献

- 1) Munsell, A.H.: A Color Notation, 1st ed. (1905)

- 2) Boston, Ellis: 9th ed. Baltimore, Munsell Color Co. 所 (1989)
- 3) CIE 1976 L*a*b* 9) Shigenobu Kobayashi: Colour Research and Application, 6, 93 (1981)
- 4) JIS Z 8729
- 5) JIS Z 8102 (1995) 物体色の色名 10) 寺主一成: おもしろい色のおはなし, 日刊工業新聞 (1991)
- 6) 日本色彩学会編: 色彩科学ハンドブック (第2版), 東京大学出版会, 375-386 (1998) 11) 寺主一成: 宝塚造形芸術大学紀要, 3, 85 (1989)
- 7) 小林重順: カラーイメージスケール, 講談社 (2001) 12) 色のイメージ事典, 日本流行色協会, 同朋舎出版 (1991)
- 8) ハーモニックカラーチャート解説書, 日本色研究